

国際文化交流事業
民俗芸能で広がる子どもたちの世界



第13回

全国



2011. 8.20 [土]
13:30開場 14:00開演
日本青年館大ホール

一こどもも 民俗芸能大会



8月20日[土]/21日[日]

主催 社団法人 全日本郷土芸能協会

後援 文部科学省、ロシア連邦大使館、全国民俗芸能保存振興市町村連盟、青森県教育委員会、岩手県教育委員会、群馬県教育委員会、石川県教育委員会、兵庫県教育委員会、高知県教育委員会、長崎県教育委員会、(公財) 伝統文化活性化国民協会、(財) 日本青年館、日本青年団協議会、(株) 教育新聞社

助成 日本財団 社団法人東京倶楽部 子どもゆめ基金



第8回
伝統文化
研修セミナー
2011

東京・明治神宮外苑

全会議室(18室)ブロードバンド対応!



- 宿泊 81室(和40・洋29・和洋12)400名
- 会議・研修 大ホール(1,360席)、他18室
- 婚礼・宴会



洋室

和洋室

A-ONE会議室

日本青年館 ホテル
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町7-1
TEL:03-3401-0101 FAX:03-3404-0611
http://www.nippon-seinenkan.or.jp
E-mail:hotel@nippon-seinenkan.or.jp

富士山麓・山中湖畔1,000mの別天地



- 宿泊 61室(和29・洋30・和洋2)330名
- 会議・研修 10室(18~150名)
- その他 大浴場、中国菜館「湖林」、体育館、野外炊飯場、駐車場完備



新館洋室

大浴室

ホール

山中湖畔荘 ホテル清溪
〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村旭日丘
TEL:0555-62-0020 FAX:0555-62-4460
http://www.nippon-seinenkan.or.jp
E-mail:seikei@nippon-seinenkan.or.jp

第13回

全国

一こどもも 民俗芸能大会

民俗芸能で広がる子どもたちの世界

スタッフ

構成・演出 (社)全日本郷土芸能協会

照明 齊藤正雄

音響 井上寛文

舞台監督 笹生 昭 畑崎広和

舞台進行 加計涼子 山本真也 井上和彦

宣伝美術 松岡拓也(江戸クリエイト(株))

記録写真 松井 聡

記録映像 (株)ポール

制作 (社)全日本郷土芸能協会
森下春夫 小岩秀太郎 西田昌代



社団法人 全日本郷土芸能協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 6-7-14-102
TEL. 03-5545-3413 E-mail. info@jfpaa.jp http://www.jfpaa.jp/



第13回
全国

子ども民俗芸能大会



社団法人 全日本郷土芸能協会
理事長 中嶋 春洋

この度の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を祈念申し上げます。また、幸いにも大津波の被災を免れた東北の2団体にご参加いただき13回目を迎える「全国子ども民俗芸能大会」と、被災された宮城県塩竈市から塩竈市立第三小学校の「塩竈神楽」に取り組み事例発表を含む第8回「伝統文化研修セミナー」を開催できますことは、当協会にとりまして本当に意義深いことと存じます。さらに、本大会では、当協会で立ち上げた、被災地の郷土芸能の復興支援のための「郷土芸能復興支援プロジェクト」の一環として、被災された郷土芸能に携わる子どもたちへの支援の募金も行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

この大会は、我が国の大切な文化財である民俗芸能の保存振興と後継者育成の一助となることを目的として開催してまいりました。今回被災された東北地方のみならず、近年の過疎化による地域社会の変化により、これまで長い間先人より伝えられてきた民俗芸能やお祭りが出来なくなっている地域が数多くあります。この民俗芸能を後世に繋げていくことは容易な事ではありません。しかし私たちは地域文化としての民俗芸能の持つ力を強く信じております。子どもたちが地域の民俗芸能に触れ、仲間たちとの交流や大人との世代間交流の中で、生きていくうえでとても大切なことが育まれていきます。併催いたします伝統文化研修セミナーは、学校や地域で民俗芸能に取り組み子どもたちの事例発表を通して、学校教育と地域社会における民俗芸能の伝承活動とのかかわり方などを探るセミナーです。今年のセミナーは「日本再生の基礎 民俗芸能におけるこどもの役割」をテーマに開催されます。日本再生に果たす民俗芸能の役割が注目されており、このテーマでのディスカッションに大いに期待するところです。

今年も各都道府県教育委員会から多くの参加希望団体の推薦を頂きました。選考委員会を経て選ばれた7団体は、どの芸能もそれぞれの郷土で育まれた特色あるものです。また、加えてロシアの北方少数民族「ウリチ民族芸能団」の子どもたちを招聘いたしました。国際文化交流事業として子どもたちの国際理解の促進に寄与するものです。どの団体の子どもたちも郷土の誇りを胸に日頃の成果を大いに発揮してくれることでしょう。

最後になりましたが、文部科学省をはじめ後援を頂きました各関係団体、助成を頂きました日本財団、社団法人東京倶楽部、子どもゆめ基金、そして日々練習を重ねてきた子どもたちとご家族、出演団体関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

ごあいさつ

出演団体選考委員会
委員長 宇野 小四郎



今年は大大会も第13回を迎えました。でも今年には私たちにとって辛い悲しい出来事がありました。広い範囲で大地震、大津波、原発の異常などが打ち重なっておきました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

このような状況にも関わらず、本大会が開催できたのは、出演する子どもたちはもちろん、地元はじめ、学校、教育委員会など多くの方々の厚いご支援によるものと深く感謝申し上げます。中でも、北海道・東北ブロックの青森県十和田市の晴山獅子舞保存会「晴山獅子舞」、同じく岩手県北上市の鬼柳鬼剣舞保存会「鬼柳鬼剣舞」の参加は、私たちを大変勇気付けてくれました。

今年は47都道府県より53団体が推薦され、上記の2団体の他、関東ブロックより群馬県伊勢崎市の千本木龍頭神舞保存会の「千本木龍頭神舞」、近畿・東海・北陸ブロックより石川県加賀市の敷地天神蝶の舞保存会「敷地天神蝶の舞」、同じく同ブロックの兵庫県養父市のせきのみや子ども歌舞伎クラブ「葛畑農村歌舞伎」、中国・四国ブロックより高知県室戸市の佐喜浜古式行事保存会子ども俄部会「佐喜浜にわか」、九州・沖縄ブロックより長崎県対馬市の曲郷土芸能保存会「対馬厳原の盆踊」、それに海外招聘団体としてウリチ民族芸能団「ホスタ」の「ウリチ民族の伝統舞踊」の8団体です。どれも元気な子どもたちが日頃の練習の成果を発表する舞台になるでしょう。

私たちが出演をお願いする団体を選考する基準は、途絶えそうな芸能を懸命に繋ぐ努力や、いろいろな工夫で保存のために地域が一体になっている姿などいろいろありますが、必ずしも技術の高さにこだわってはいませんでした。しかし、この10年程の間に、子どもたちの技術、業は全国的に高まっています。郷土の芸能の未来の担い手、後継者を育てたいという取り組みが、現実の担い手となりつつあるのではないのでしょうか。

このような姿をみていると、どんな災害が襲ってきても、日本の芸能は絶えることはないと感じております。そして、私たちの社会の未来をより豊かで、明るくする設計図をつくるような作業として、本大会と並行して行われる「伝統文化研修セミナー」も、第8回となりました。2011「日本再生の基礎 民俗芸能におけるこどもの役割」にも多くの皆さんが関心を持ち、参加されることを願います。

第13回 全国こども民俗芸能大会

プログラム

- 第一景 かづらはたのうそんかぶき
葛畑農村歌舞伎
かづらはたさんぼそう
「葛畑三番叟」
- 第二景 せんぼんぎりゅうとうしんまい
千本木龍頭神舞
「すり込み」「たたら」「廻りざさら」「岡崎」「ロットロ」「うたぎり」
- 第三景 さきはま
佐喜浜にわか
さきはま
「佐喜浜にわか」
- 第四景 つしまいずはらぼんおどりまがりぼんおどり
対馬厳原の盆踊(曲の盆踊)
にほんおうぎおどりよだけおどり
「二本扇踊り」「四つ竹踊り」
- 休 憩
- 第五景 はれやまししまい
晴山獅子舞
さんぼそう
「三番叟」
- 第六景 しきちてんじんちようまい
敷地天神蝶の舞
ちようまい
「蝶の舞」
- 第七景 みんぞくでんとうぶよう
ウリチ民族の伝統舞踊
「エーエルツ(もてなしの踊り)」
「モディ・フブザ(柳の木の棒を使って競い合う踊り)」
「タウムブザー(遊戯などでの数え歌)」
「ポグレムシキ(マラカスの踊り)」
「マンガ・イルガ(アムール川のモザイク)」
- 第八景 おにやなぎおにけんぼい
鬼柳鬼剣舞
いちばんにわぜんまいかたなけんぼいぐるいおどりはちにんかご
「一番庭」「膳舞」「刀剣舞の狂踊り」「八人加護」

司会 斎藤みどり

出演団体選考委員会

委員長	宇野小四郎	(公財)現代人形劇センター
委員	掛谷昇治	(財)日本青年館公益事業部
委員	城井智子	(社)全日本郷土芸能協会専務理事
委員	久保田裕道	國學院大學兼任講師
委員	小島美子	国立歴史民俗博物館名誉教授
委員	芳賀日出男	民俗芸能写真家
委員	星野紘	東京文化財研究所名誉研究員

第8回 伝統文化 研修セミナー 2011

日本再生の基礎
民俗芸能におけるこどもの役割

1日目 8月20日[土] 日本青年館・大ホール

- 11:00~13:00 「第13回全国こども民俗芸能大会」 舞台稽古見学と解説
解説 星野 紘(東京文化財研究所名誉研究員)
- 14:00~16:30 「第13回全国こども民俗芸能大会」公演鑑賞

2日目 8月21日[日] 日本青年館・中ホール

- 13:00 開会
主催者挨拶 社団法人全日本郷土芸能協会 理事長 中嶋 春洋
- ◆ 基調講演
「日本中の子どもと大人が祭りに生きる日」
講師 芳賀日出男(写真家)
- ◆ 事例発表① 「宮田獅子舞」 青森県青森市
若松十六乃会 会長 今 直人
- 事例発表② 「塩竈神楽」 宮城県塩竈市
塩竈市立第三小学校郷土芸能クラブ 教諭 藤野 美岐子
- 事例発表③ 「東京花祭り」 東京都小平市
東京花祭り 実行委員長 廣木 房枝
- 事例発表④ 「新町獅子舞」 熊本県熊本市
熊本新町獅子保存会 総務部長 栗崎 強

- ◆ パネルディスカッション
「日本再生の基礎 民俗芸能におけるこどもの役割」
- ◇ コーディネーター
小島美子(国立歴史民俗博物館名誉教授)
- ◇ パネラー(予定)
宇野小四郎((公財)現代人形劇センター顧問)
高橋 建(本海獅子舞番楽伝承者協議会幹事)
田村 学(国立教育政策研究所教育課程調査官)
星野 紘(東京文化財研究所名誉研究員)



第13回

こども 民俗芸能大会

出演団体紹介

北海道・東北ブロック【青森県十和田市】

「晴山獅子舞」 晴山獅子舞保存会

晴山集落の中心に産土神社桂水大明神が鎮座しており、この神社の信仰に付随して伝えられている「晴山獅子舞」は、明治初期に隣接の集落から伝授され、その後戦争等での中断も、幾度となく再起を図り、今日まで継承されてきた。晴山の豆後継者であることも達は、平成6年から地域の小・中学生を対象に、青少年健全育成と伝統芸能の継承のために、保存会が指導に取り組み、今日まで続いている。現在25人程の子どもたちが、夏休み、冬休み期間中に晴山獅子舞の伝統芸技を受継いで、神社の例大祭、演芸会等に披露している。今回披露する「三番叟」の舞は、襦袢に裁着袴(たつつけばかま)の軽装で、手に扇子と錫杖を持って軽快に舞われる。「翁舞」と同じように不老長寿を願うおめでたい時の舞といわれており、通常は黒い切顎の面を付けて演じられる。

佐々木侖空 米田真輝 米田夢夢 米田竣 佐々木萌愛 佐々木裕成
米田浩亮 佐々木真奈 米田健亮 佐々木大地 米田雅 佐々木強志
米田大地 佐々木秀美 佐々木喜代治 米田正彦 米田真 佐々木和男
米田義広 佐々木建悦 米田尊慈 藤田泰治



北海道・東北ブロック【岩手県北上市】

「鬼柳鬼剣舞」 鬼柳鬼剣舞保存会

「鬼剣舞」は、「念仏剣舞」ともいい、威嚇的な面を付けて勇壮に踊ることから「鬼剣舞」とよばれている。今から約1300年前の大宝年間(701~703)に修験行者の祖である役の小角が苦行し、病や剣難を除き、悪魔退散、天下泰平、衆生済度のため、念仏踊りを始めたといわれ、その後、羽黒山の法印により広く世に伝わったといわれている。また、康平年間(1058~1064)の頃、前九年の役の主役安部一族の一人黒沢尻五郎正任がこの踊りを好み、将兵に出陣や凱旋の踊りとして推奨し、後に家内安全、五穀豊穡を祈願する農民の手によって伝承されてきた(黒沢尻は、現在の北上市の中心地)。如来の化身(五大明王)が踊る鬼剣舞は、すべての民を極楽浄土に導く、勇壮、華麗で、躍動美に溢れる厳しい北国に伝わる激しい踊りである。鬼柳鬼剣舞では60年程前から子どもたちに伝承しており、現在保育園、小学校、中学校、高校生、そして少年団の子どもたちに幅広く鬼剣舞を教えている。

千葉日佳里 門脇風沙 佐々木朝香 内田こころ 佐藤貴美子 菊池竜馬 高橋杏太
田中裕一朗 高橋凜 高橋卓弥 高橋尚大 中野快哉 川端隆登 千葉元輝 遠藤成実
小原世亮 渡辺裕乃 宮田俊輔 藤原尚輝 菅原晃 都鳥甚吉 高橋松雄 菅原昭次
昆龍史



関東ブロック【群馬県伊勢崎市】

「千本木龍頭神舞」 千本木龍頭神舞保存会



「千本木龍頭神舞」が、古い文献に登場するのは寛政年間(1789~1800)であるが、少なくとも江戸時代中期頃にはすでに伝承されていたと云われている。関東地方に多く分布する「一人立三頭獅子舞」の獅子舞いであるが、当地の頭の特徴は「龍頭」である。舞は勇壮で激しく、「とぶさ」と呼ばれる髪を振り乱し踊り、舞い散った髪は魔除けになるといわれ、子ども達が争って拾いあい、家々の玄関に飾られる。舞は毎年、10月第3土・日曜日の千本木神社の秋祭りに奉納される。昭和63年に子ども用獅子頭を作り、後継者育成に取り組み、現在は小学校4年生から中学生までの大勢の子どもたちが舞いに篠笛にと練習に励んでいる。また、茂呂小学校でも「龍頭神舞体験活動」として学校教育に取り入れられ、毎年5、6年生全員が運動会で地区の人々に披露している。今回は、小学生が基本的な舞「すり込み」「たたら」「廻りざら」を、中学生が「岡崎」「ロトロ」「うたざり」の激しい舞を披露する。

渋谷楓 田中里奈 長沼真央 福田加奈 横田有香 梶並拓斗 菊池一磨 大和翔
深町里緒 深町香純 丸橋祐梨菜 梶並徳花 浪沢のどか 下崎莉奈 石井柁圭 川口淳
菊池啓亮 毛呂悠斗 福田一輝 田中俊介 松井拓己 大和祐 渡辺瑠偉 丸橋一善
丸橋操 鈴木宣男 丸橋幸夫 丸橋功 丸橋良一 大和弘幸 丸橋彰 鈴木忠雄
菊池進 須田文彦 須田智子 菊池論 深町郁美 荻野美美江 菊池善二 丸橋直子

近畿・東海・北陸ブロック【石川県加賀市】

「敷地天神蝶の舞」 敷地天神蝶の舞保存会

石川県加賀市におよそ1400年前より鎮座する菅生石部神社(敷地天神と通称されている)において、毎年7月24日より26日まで行われる「天神講」という祭がある。この「天神講」の3日間の期間中に境内の舞殿にて、稚児舞「敷地天神蝶の舞」が披露される。石川県内での稚児舞は大変珍しく加賀地方では唯一で、後は能登地方に一つあるだけといわれており、加賀市の無形民俗文化財に指定されている。始まりははっきりとわからないが、文献からは少なくとも700年程前には行われていたようである。以前は五つの舞があり、「大和舞」や「舞楽」と称していた。現在では「扇の舞」「鈴の舞」「蝶の舞」の三つの舞があり、これらを「蝶の舞」と称している。舞の名称は、それぞれの舞の持ち物や飾り物に由来しており、最後に舞われる「蝶の舞」では背中に大きな蝶の形をした飾り物を着けるのが特徴的なことから総称されるようになったようである。

菅村寛人 野根秀真 藤澤岳琉 藤澤玲空 藤澤菜瑠 野根千聡 小坂貴行 菅村仁志
岩本準一郎 菅村香代子 岩本節子



近畿・東海・北陸ブロック【兵庫県養父市】

「葛畑農村歌舞伎」 せきのみや子ども歌舞伎クラブ



兵庫県北部に位置する養父市葛畑地区には国指定重要有形民俗文化財「葛畑の舞台」(芝居堂)があり、江戸時代に上方で歌舞伎役者をしていた藤田甚左衛門が帰郷し、地元の農民に歌舞伎を教え「葛畑座」を立ち上げたといわれている。昭和41年に一度公演が行われたがその後途絶え、平成15年10月、37年ぶりに農村歌舞伎「葛畑座」が復活公演を行った。今年で9年目を迎える「せきのみや子ども歌舞伎クラブ」は37年ぶりに復活させた大人たちに触発され、葛畑区の子どもたちを中心に結成され、現在では市全域から募集した小学4年生から中学3年生までの10名が5月から厳しい稽古を重ねている。茅葺きの舞台の周辺は棚田が広がり、のどかな農村の風景を背景に歌舞伎が披露されている。今回演じる「葛畑三番叟」は、雪に埋もれながら春を待ち、田畑で種をまき、慈しみながら万物を育て収穫する喜びと葛畑の自然の移ろいを表現している。豪雪地帯に位置する地域でスキー場も有しているため、途中雪が降り喜んで舞う場面が見どころである。

木戸結生 藤原智佳 西岡明佳音 藤原崇哉 桜田萌映 岡崎香奈絵 足立望
桜田聖大 岡崎知夏 豊澤浩樹 竹本三柁太夫 黒厚子富義 西村武 岡崎重光
桜田正則 藤岡勘輝 水口一夫 嶋田真寿 嶋田睦寿 石川一 大屋裕介
西岡久美子 木戸朝子 藤原裕子 藤原淳二 西口一樹



中国・四国ブロック【高知県室戸市】

「佐喜浜にわか」

佐喜浜古式行事保存会子ども俄部会

「佐喜浜にわか」は、佐喜浜八幡宮の秋の祭礼に奉納される滑稽な寸劇である。いつの時代に誰が創始したか不明であるが、上方俄の流れを汲むものであろうと云われている。昔は「半之丞宿」、「西宿」、「中宿」、「南宿」とよばれた四つの若衆宿があり、「大宮」、「浜宮」の二場所で毎年八幕の俄を競演していた。現在では少子高齢化の影響で「浦宿」に統合され、「大宮」、「浜宮」の二場所で二幕を演じている。出し物は自由自在、脚本は毎年書き改めるいわゆる「大新版」である。ただ俄には一定の型があり、筋書きの「仕打ち」から最後の「攻め」と、「受け」にかかるのであるが、その言葉のいさかいが証拠物件を示し「落とし」を以って決着がつけられる。明和年間の台本以降、一年として同じ台本が演じられる事がなく、その年々の話題を取り入れ、歯に衣着せぬ台詞が作られる。

神崎信次郎 濱中隆貴 中島銀治郎 高田洗希 窪上信 徳増克則 田村望 高田倫希 田村拓巳 田村拓 上田庄吾 高田隼人 阿野田直人

九州・沖縄ブロック【長崎県対馬市】

「対馬巖原の盆踊(曲の盆踊)」

曲郷土芸能保存会

対馬は、九州最北端の国境の島である。島は南北に長く巖原町曲地区は最南端である。曲地区では、はっきりした記録ではないが、源平合戦の頃より始まるという「盆踊」の伝承が残されている。現在「綾踊り」、「二本扇踊り」、「四つ竹踊り」、「柳踊り」の4種類が伝えられており。綾踊りの口説き(歌)に筑前鐘崎(福岡県宗像市鐘崎)から源平合戦のころに対馬に來住したという歌詞がある。平成4年より子どもたちが盆踊りの基礎的な動作を習得してもらえるようにと、小学生は「四つ竹踊り」、中学生は「二本扇踊り」を主に継承に取り組んでいる。いずれも5~6人の地謡(ジューター)と太鼓1人、踊り子8~10人で構成され、膝を曲げ腰を低くして踊るのが特色である。今回演じる「四つ竹踊り」は房のついた四つ竹を持ち、道徳的な詩に合わせて踊り、「二本扇踊り」は供養踊りの性格が強いもので左手に三つ雲、右手に日の丸の扇子を持って踊る。

原田龍真 梅野拓海 梅野圭吾 山口陸 西川育也 川内統伍 梅野智輝 河本翔哉 森山灯 砂月一輝 梅野大珠 堀江雄斗 梅野光平 森山中 岡野裕貴 高橋恵人 河本太志 阿比留直希 梅野和貴 梅野直樹 梅野隆 梅野英樹 梅野昭和 梅野春次 梅野金太郎 梅野菊次 梅野林壽 梅野健一 村田すぎ江 梅野鈴子 梅野千代美 神宮志緒美 梅野なぎさ 梅野陽子 山口利恵 梅野珠富美 砂月千枝 川内昌也 原田真紀 梅野直房



海外団体【ロシア連邦】

「ウリチ民族の伝統舞踊」

ウリチ民族芸能団「ホスタ」



ウリチ民族は、ロシア連邦の極東に位置するハバロフスク地方の中央を流れるアムール川の河口近くに住んでいる。また、その流域にはナナイ、ウデヘ、オロチ等8つの先住民族、約23,000人が居住している。ウリチは日本の先住民族であるアイヌと同様に、熊の魂を天国へ送る「熊送り」を行っている。実際に樺太を経由して文化交流があり、現在もアイヌの子孫が住んでいる。その代表的な踊りは、何人かの女性がそれぞれ2本の木の撥を持ち、一端に熊の頭を彫刻した5m位の長さの丸太太鼓を並んで叩く。このリズムに合わせて女の人が手に柳の木の削り花をもって体を左右にひねる独特の儀礼の踊りを踊る。この女性の踊りの合間に、柳の木の棒を使って競い合う男性の活発な踊りもある。今回の公演では“ギワ(夜明け)”の指導を受けている“ホスタ(星)”と言う子どもたちのグループが踊りを披露する。

オルチ・アンナ ヴェトカン・アナスターシャ デルガチュヴァ・リュボーフィ キム・イリーナ オフチニコヴァ・オクサーナ ウランギナ・クリスチーナ オフチニコフ・ヴラダ・ミルイヴァンニコフ・ドミートリイ デルガチョフ・ドミートリイ ヤゴフキン・グリゴリー ヴェトカン・ガリーナ ダンカン・ユーレイ 多原オリガ(通訳)

全国こども民俗芸能大会出演団体

平成11年度(1999年)第1回こども民俗芸能大会『キッズ21~お祭りわっしょい』

「貫井雛子」	貫井雛子保存会	(東京都小金井市)
「獅子舞」	田名八幡宮獅子舞保存会	(神奈川県相模原市)
「エイサー・獅子舞」	琉球國祭り太鼓東京支部	(東京都杉並区)
「高円寺阿波踊り」	東京飛鳥連	(東京都杉並区)
「チャッキラコ」	ちゃっきらこ保存会	(神奈川県三浦市)

平成12年度(2000年)第2回こども民俗芸能大会『こどもたちの舞い・踊り』

「雅楽」	瑞穂雅楽会	(東京都葛飾区)
「阿波踊り」	経堂むらさき連	(東京都世田谷区)
「獅子舞」	大島諏訪明神獅子舞保存会	(神奈川県相模原市)
「和太鼓」	相模龍王太鼓保存会少年部	(神奈川県相模原市)

平成13年度(2001年)第3回こども民俗芸能大会『こどもからこどもへ~伝え継がれた神楽と踊り』

「飴屋踊り」	長井町飴屋踊り保存会	(神奈川県横須賀市)
「本海番楽」	猿倉番楽保存会	(秋田県鳥海町)
「石見神代神楽」	上府子供神楽団	(島根県浜田市)
「荒馬踊り」	世田谷リズムの会	(東京都世田谷区)

平成14年度(2002年)第4回全国こども民俗芸能大会

『北から南から選抜された芸能大集合~こどものまつり~』

北海道・東北ブロック	「下北の能舞」	白糠子ども会	(青森県東通村)
関東ブロック	「猿っ子踊り」	賀茂村宇久須柴区子供会	(静岡県賀茂村)
東京都	「稲付の餅搗唄」	稲付千本杵餅練唄・餅搗唄保存会	(東京都北区)
近畿・東海・北陸ブロック	「いさな太鼓」	太地町民芸保存会こども民芸保存部会	(和歌山県太地町)
中国・四国ブロック	「山川町神代御宝踊」	神代御宝踊保存会	(徳島県山川町)
九州・沖縄ブロック	「荷川取のクイチャー」	荷川取子ども会	(沖縄県平良市)

平成15年度(2003年)第5回全国こども民俗芸能大会

『未来へ受け継がれるふるさとの芸能大集合~こどものまつり~』

北海道・東北ブロック	「廿一田植踊」	廿一田植踊保存会	(宮城県気仙沼市)
関東ブロック	「今田人形」	竜峡中学校今田人形座	(長野県飯田市)
東京都	「仲若雛子」	仲若雛子連	(東京都練馬区)
近畿・東海・北陸ブロック	「天神祭りの獅子舞」	本郷子供会	(岐阜県上宝村)
中国・四国ブロック	「伊予万歳」	伊予万歳双葉会	(愛媛県北条市)
九州・沖縄ブロック	「庄内神楽」	庄内子供神楽愛好会	(大分県庄内町)

平成16年度(2004年)第6回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界~こどものまつり~』

北海道・東北ブロック	「根反鹿踊り」	一戸南小学校根反鹿踊り伝承クラブ	(岩手県一戸町)
関東ブロック	「鷺流狂言」	佐渡市立真野中学校	(新潟県佐渡市)
東京都	「江戸祭り雛子」	神田流神明雛子保存会	(東京都板橋区)
近畿・東海・北陸ブロック	「塩津の鯉踊り」	塩津いな踊り保存会	(和歌山県下津町)
中国・四国ブロック	「石見神楽」	有福子供神楽社中	(島根県浜田市)
九州・沖縄ブロック	「石垣川平の結願祭」	川平伝統芸能保存会	(沖縄県石垣市)

平成17年度(2005年)第7回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界~こどものまつり~』

北海道・東北ブロック	「黒川能」	櫛引町立櫛引東小学校	(山形県櫛引町)
関東ブロック	「与板民謡」	与板民謡たちばな会	(新潟県与板町)
	「廣大寺」	栃尾市立中野俣小学校	(新潟県栃尾市)
近畿・東海・北陸ブロック	「唐人踊」	子ども唐人・唐人踊を継ぐ会	(三重県津市)
中国・四国ブロック	「有田神楽」	有田こども神楽団	(広島県北広島町)
	「釜ヶ原神楽」	北門こども神楽	(山口県美和町)
九州・沖縄ブロック	「滑石竜踊」	滑石竜踊保存会子供竜踊	(長崎県長崎市)

全国こども民俗芸能大会出演団体

平成18年度(2006年)第8回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界～こどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「鶏舞」	沢田鶏舞保存会	(青森県十和田市)
関東ブロック	「利根地固め唄」	利根地固め唄保存会	(茨城県利根町)
東京都	「八王子車人形」	八王子市立由井中学校三味線部	(東京都八王子市)
近畿・東海・北陸ブロック	「御殿万歳」	山添御殿万歳こども教室	(奈良県山添村)
中国・四国ブロック	「麒麟獅子舞・さいとさし」	中ノ郷伝統芸能くらぶ	(鳥取県鳥取市)
	「石見大元神楽」	市木榎尾子こども神楽団	(鳥根県邑南町)
九州・沖縄ブロック	「伊倉仁〇加」	伊倉仁〇加保存会	(熊本県玉名市)
在日の海外団体	「インドネシアの芸能」	東京インドネシア共和国学校	(東京都目黒区)

平成19年度(2007年)第9回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界～親子でたのしむこどものまつり～』

北海道・東北ブロック	「松前神楽」	神恵内松前神楽保存会	(北海道神恵内村)
	「鹿子躍・鶏舞」	一関市立舞川小学校	(岩手県一関市)
関東ブロック	「滝沢の放歌踊り」	浜松市立都田中学校	(静岡県浜松市)
東京都	「江戸の祭り囃子」	戸塚囃子保存会	(東京都新宿区)
近畿・東海・北陸ブロック	「御殿万歳」	西尾市立西野町小学校御殿万歳クラブ	(愛知県西尾市)
中国・四国ブロック	「御調神楽」	尾道市立上川辺小学校こども神楽教室	(広島県尾道市)
九州・沖縄ブロック	「島唄・六調」	天城子宝六調バンド	(鹿児島県天城町)
在日の海外団体	「インドの伝統芸能」	コンテンポラリー・ナティヤム・カンパニー	(東京都練馬区)

平成20年度(2008年)第10回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック	「南部駒踊」	高館駒踊保存会	(青森県八戸市)
関東ブロック	「いなりっこ」	三浦いなりっこ保存会	(神奈川県三浦市)
	「小田原囃子」	小田原囃子多古保存会	(神奈川県小田原市)
近畿・東海・北陸ブロック	「氷見網起し木遣り」	氷見網起し木遣り保存会子供会	(富山県氷見市)
	「曾爾の獅子舞」	曾爾村立曾爾中学校	(奈良県曾爾村)
中国・四国ブロック	「石見神楽」	高津神楽社中子こども神楽部	(鳥根県益田市)
九州・沖縄ブロック	「沖端水天宮舟舞台囃子」	舟舞台囃子保存会	(福岡県柳川市)
在日の海外団体	「ペルーの民族舞踊」	日本・ペルー文化実行委員会	(滋賀県大津市)

平成21年度(2009年)第11回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック	「秋保の田植踊」	湯元の田植踊保存会	(宮城県仙台市)
関東ブロック	「徳山の盆踊」	川根本町徳山古典芸能保存会	(静岡県川根本町)
近畿・東海・北陸ブロック	「京都の六斎念仏」	京都市立光徳小学校六斎クラブ	(京都府京都市)
中国・四国ブロック	「淀江さんこ節」	宇田川青少年育成会郷土芸能部	(鳥取県米子市)
	「古三津の虎舞」	古三津子ども虎舞保存会	(愛媛県松山市)
九州・沖縄ブロック	「御嶽神楽」	清川子ども神楽保存会	(大分県豊後大野市)
在日の海外団体	「韓国の伝統芸能」	金美福舞踊研究所	(東京都荒川区)
海外からの招聘団体	「スリランカの伝統舞踊」	キャンディ・トラディショナル・ダンス・グループ	(スリランカ民主社会主義共和国)

平成22年度(2010年)第12回全国こども民俗芸能大会

『民俗芸能で広がる子どもの世界』

北海道・東北ブロック	「荒巻番楽」	秋田県 荒巻番楽保存会	(秋田県秋田市)
関東ブロック	「沼田祇園囃子」	群馬県 沼田祇園囃子保存会連合会	(群馬県沼田市)
	「小栗山の獅子舞」	新潟県 小栗山不動院獅子舞保存会	(新潟県見附市)
	「南信州の屋台獅子」	長野県 鼎中平獅子舞保存会	(長野県飯田市)
近畿・東海・北陸ブロック	「射和祇園祭囃子」	三重県 射和祇園祭囃子保存会	(三重県松阪市)
	「備中神楽」	岡山県 成羽備中神楽育成会	(岡山県高梁市)
九州・沖縄ブロック	「青島臼太鼓踊り」	宮崎県 青島臼太鼓踊り保存会	(宮崎県宮崎市)
海外団体	「南インドの伝統舞踊～ヒニヤタム」	インド ナタナカイシキ舞踊研究所	(インド共和国)

第13回 全国こども民俗芸能大会

第13回

全国



北海道・東北ブロック◆青森県十和田市
「晴山獅子舞」
晴山獅子舞保存会



近畿・東海・北陸ブロック◆石川県加賀市
「敷地天神蝶の舞」
敷地天神蝶の舞保存会



海外団体◆ロシヤ連邦ハバロフスク地方
「ウリチ民族の伝統舞踊」
ウリチ民族芸能団時スウ



北海道・東北ブロック◆岩手県北上市
「鬼柳鬼剣舞」
鬼柳鬼剣舞保存会